

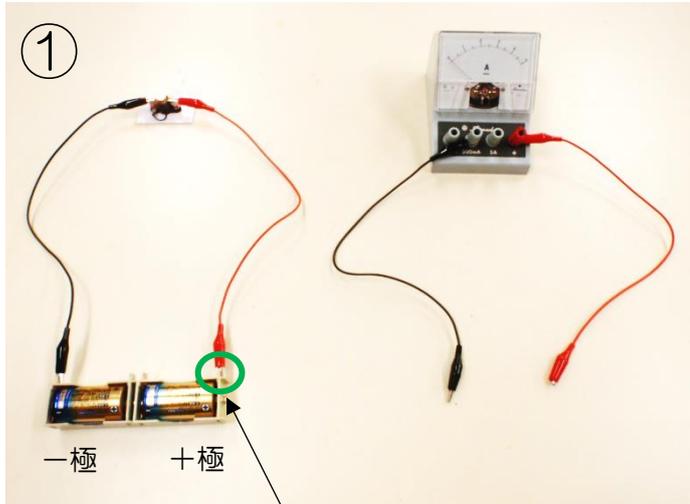
# 電流計のつなぎ方

◎ 電流計は、「電流の大きさ」を測るための実験器具です。

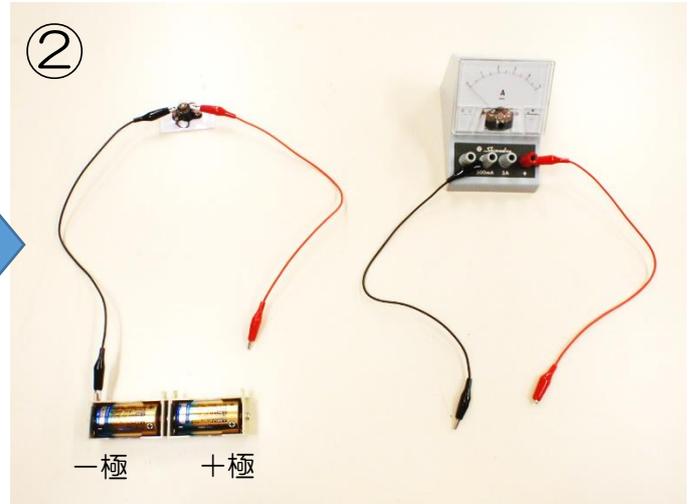
赤色の「+端子」が1本と、  
黒色の「-端子」が3本あります。

※ はかりたい場所に「直列つなぎ」をします。

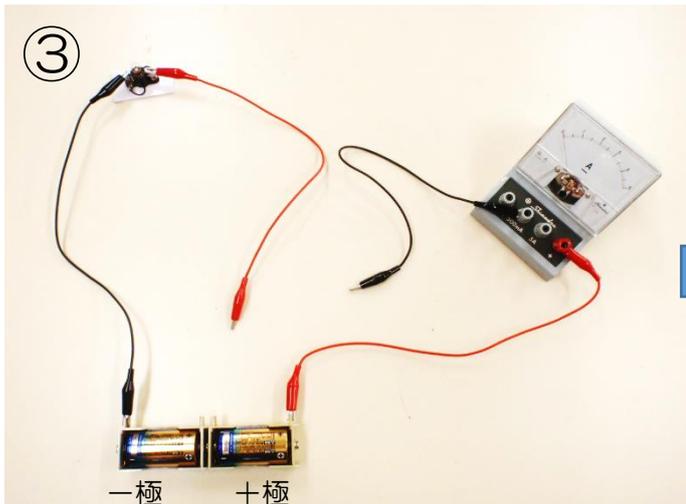
??直列つなぎって??



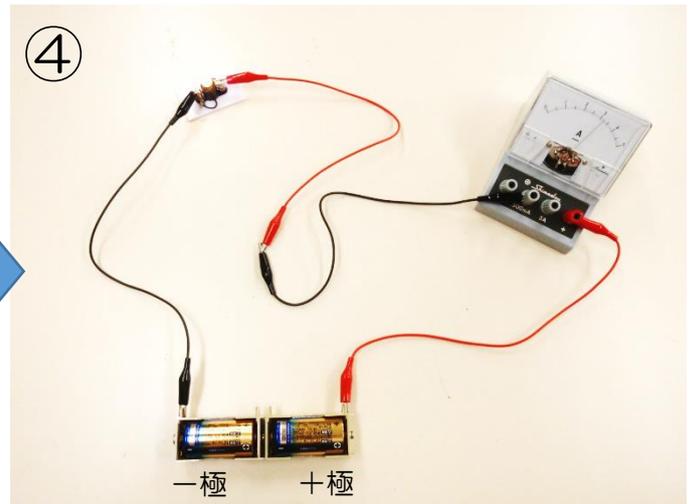
この場所の電流を測りたいとき



測りたい場所を切る



電池の+極側に電流計の+端子をつなぐ



電池の-極側に電流計の-端子をつなぐ

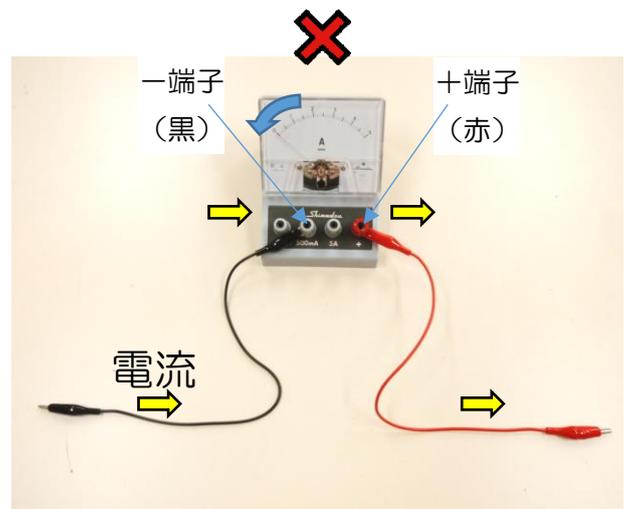
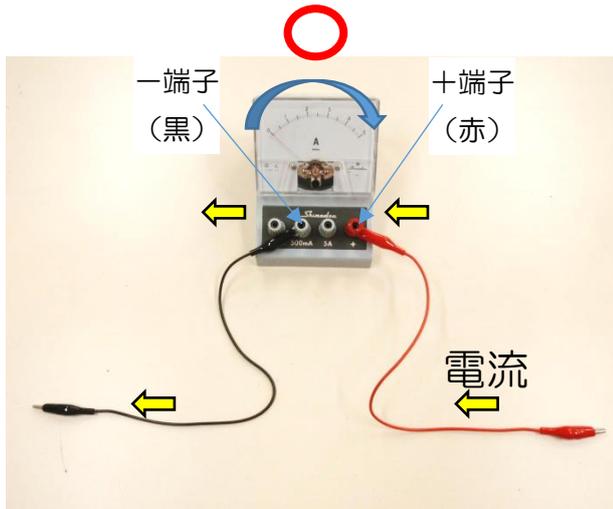
※ 測定する電流が分からないときは、5Aの一端子を最初に使用する。その後、針の振れが小さすぎるときは、一端子を500mA、50mAの順に小さいほうへつなぎかえる。

→ 今回の実験では500mAの一端子を使用します。

# 電流計の目盛りについて

## ○ 電流の向きと目盛り

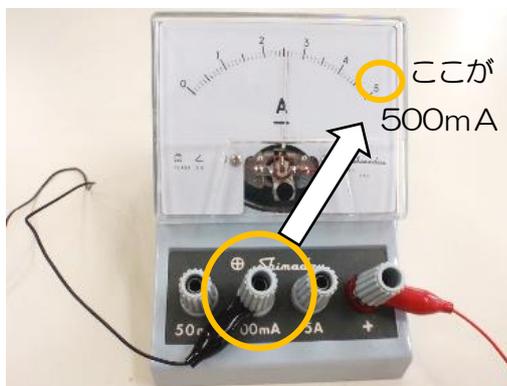
- +端子から入って，-端子から出る電流の大きさが目盛りで表示される。
- もしも，電流を-端子から入れ，+端子から出るようにつないでしまうと，針が目盛りとは反対に動いてしまう。



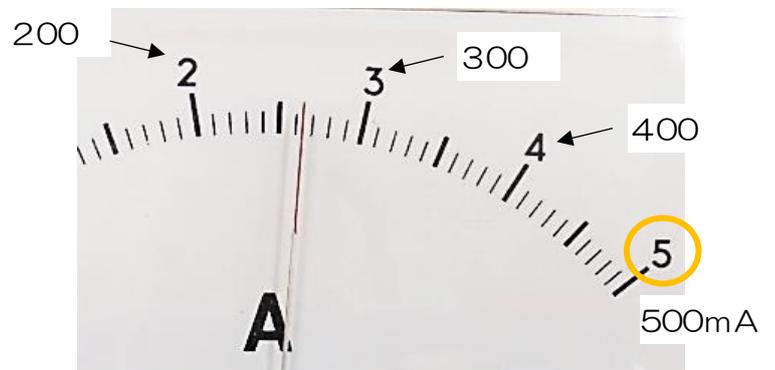
## ○ 目盛りの読み方 (電流の大きさ)

- 3本の一端子のうち，どれを使うかで目盛りの読みが変わる。  
正面から，最小目盛りの10分の1まで読む。

例えば . . . 500mAの一端子を使うと，目盛りの5の数字が500mAを示すようになります。



一端子が500mAなら



この場合，263mAですね。  
(262mAや264mAでもOKですよ。)